

大雪山国立公園における協働型管理運営体制の構築に向けたワークショップ(第3回) 開催結果



ワークショップの様子

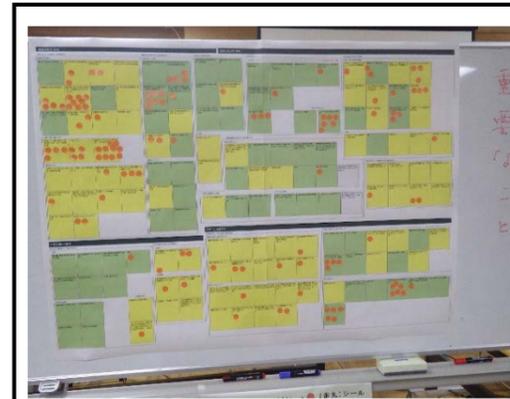
環境省上川・東川・上士幌自然保護官事務所

今回のワークショップでは各地域の情報交換会後にお時間を頂き、第2回ワークショップで出た「登山道維持管理部会で実施したいこと」などについての意見の中から、新しい取組を始めるという提案に対して「重要なこと」、「やれそうなこと」の視点で参加者に投票していただいた。

行政機関、民間団体、有識者の皆様、ご参加ありがとうございました。ワークショップでの投票の仕方やとりまとめ方は右側、ワークショップ投票結果、ワークショップ質疑応答、参加者・学識者コメントは裏面をご覧ください。

ワークショップでの投票の仕方・とりまとめ方

参加者にはA0サイズの第2回WS結果を記載した意見の付箋を改めて確認していただき、「重要な事」3つ選び●(赤シール)、「やれそうな事」3つ選び●(青シール)でそれぞれ投票していただいた。



表大雪地域の投票の様子



東大雪地域の投票の様子

ワークショップ開催日時・場所、参加者

	開催日時・場所	参加者数
表大雪地域	平成30年 12月18日(火) 14:30~16:00 旭川地場産業振興センター (旭川市)	42名 ・行政機関、民間団体41名 ・学識経験者1名
東大雪地域	平成30年 12月19日(水) 15:00~16:30 十勝総合振興局 (帯広市)	18名 ・行政機関、民間団体18名

【配布資料】

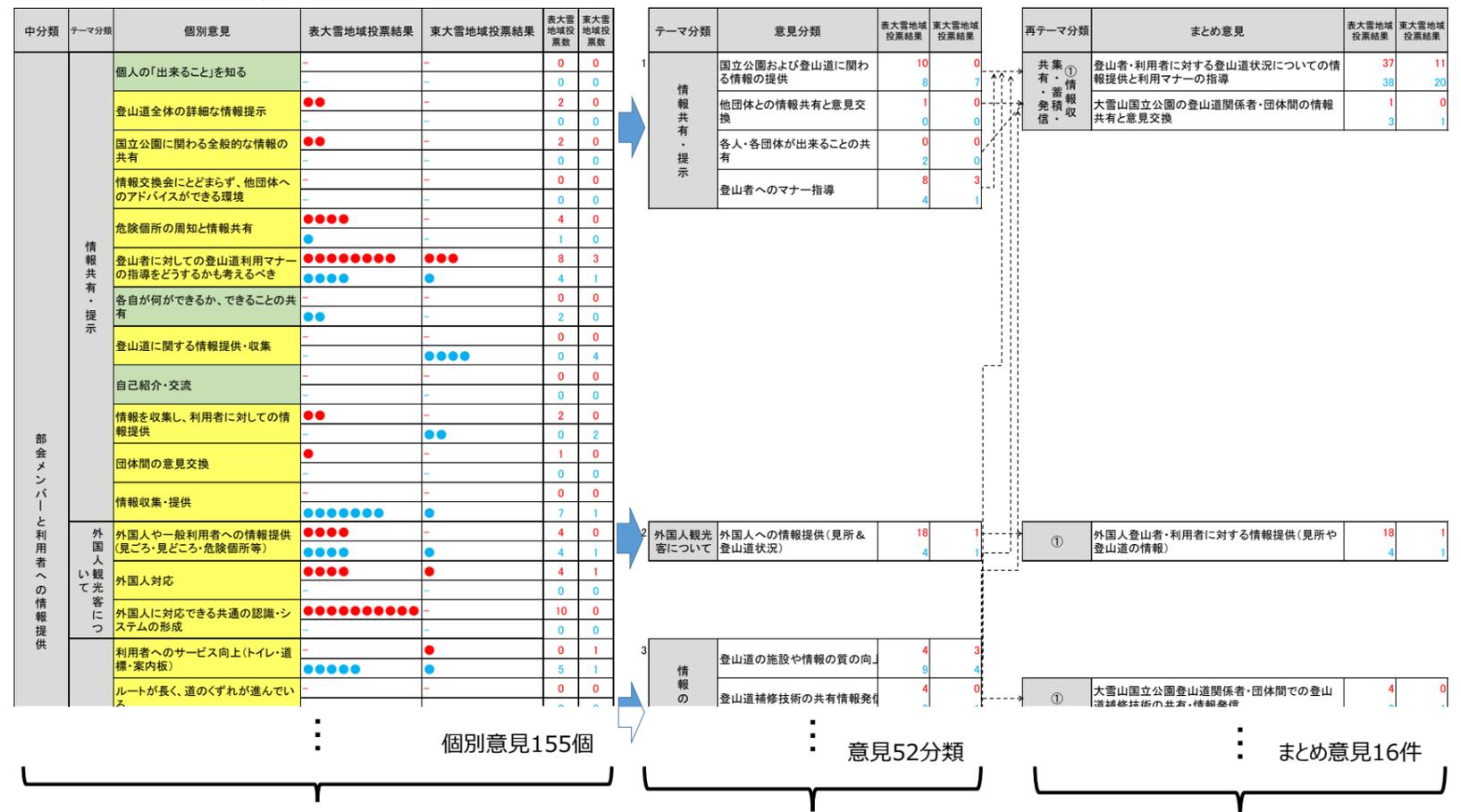
- ワークショップ次第
- 資料1 大雪山国立公園連絡協議会(総合型協議会)準備会の動きについて
- 資料2 ワークショップ(第1回、第2回)のふりかえりと課題
- 参考資料1 第1回ワークショップの結果
- 参考資料2 第2回ワークショップの結果
- 参考資料3 大雪山国立公園フォーラム(1月28日開催)について

当日のプログラム(表大雪地域、東大雪地域共通)

開会

1. 大雪山国立公園連絡協議会(総合型協議会)準備会の動き(報告)
2. ワークショップ(第1回、第2回)のふりかえりと課題
3. 今後の取組事項について(本日のワークショップ)
4. まとめ

閉会



- 全ての意見に対する投票結果を集計
- 投票がない意見を削除
- 投票のあった意見のうち、同じ意見を整理統合
- 整理統合した意見の投票数を集計
- 整理統合した意見のうち似たような意見をさらに統合
- 赤数字で「重要な事」、青数字で「やれそうなこと」の票数を示した

ワークショップ投票結果

- “重要な事”“やれそうな事”ともに最も票が多かったまとめ意見は「登山者・利用者に対する登山道状況についての情報提供と利用マナーの指導」であった
- 次に票が多いまとめ意見は「部会の理念、あり方、方向性、扱う範囲（登山道のあり方、大連協との関係と権限、登山道以外の付帯施設の管理等）」であった

投票結果から、情報発信を先行的に進めたり、登山道維持管理部会での運営を具体化したりしていくことが必要と考えられる。

再テーマ分類	まとめ意見	投票結果	
		表大雪地域	東大雪地域
① 情報共有・発信蓄積	登山者・利用者に対する登山道状況についての情報提供と利用マナーの指導	37 38	11 20
	外国人登山者・利用者に対する情報提供（見所や登山道の情報）	18 4	1 1
	大雪山国立公園登山道関係者・団体間での登山道補修技術の共有・情報発信	4 8	0 1
	大雪山国立公園の登山道関係者・団体間の情報共有と意見交換	1 3	0 1
	登山道利用者に対して発信する情報（イベント情報含む）の可視化と一元化	0 6	3 1
	部会構成員同士で表大雪・東大雪同士の情報共有を蜜にできる仕組み	1 3	1 1
と多② 人用部材な会活視で用点の	部会メンバーの能力向上、活性化、人材育成	6 1	0 0
	多様な視点（行政&民間&研究者、観光関係等）導入とそためのネットワーク	5 0	0 0
③ 部会の管理・運営に関与するシステム	部会の理念、あり方、方向性、扱う範囲（登山道のあり方、大連協との関係と権限、登山道以外の付帯施設の管理等）	18 20	10 5
	課題の洗出し、共有、解決に向けた優先順位付け（長・短期の計画策定・ソフト・ハード面の具体的解決方法とPDCAサイクルの確立）	16 29	4 9
	登山道の適切な維持管理の実施に必要な基盤形成（未執行区間の解消等）と円滑な手続きに関する相談・検討	6 1	6 0
	管理運営に関する効率的なシステム（役割分担、決定プロセス、リスク管理、責任問題）	3 4	3 1
	部会ではなく情報交換会のままでよい	0 0	1 0
④ 資金	部会の開催時期と回数の見直し	0 1	0 2
	ボランティア・周辺環境整備などに使える予算	6 1	3 0
	施設整備・補修に関する直接的資金	6 3	2 0

赤字：重要な事
青字：やれそうな事

ワークショップでの質疑応答と学識経験者のコメント

表大雪地域での質疑応答

関口氏	大雪山国立公園を私たちはどうしたいのか、という基本的な話が今まで議論されたのか。登山道の整備について言えば、利用者の立場で見るのか、動植物の立場で見るのかによって登山道の整備も違ってくる。大雪山をどうしたいのか、またその場合登山道はどう整備していくのかについて、1回目と2回目参加していなかったのでお聞きしたい。
横須賀氏	私も第1回・第2回は忙しい時期で出席出来ず申し訳ない。こうして今回WSに参加すると話は随分先に進んでいるのだなと感じた。同時に、部会は作ってもいいと思う。登山道を技術的に評価して先進的な登山道補修の工法を確立していくには6月・7月・8月と一番忙しい時期に、ミーティングは出来ないと思われるので、部会で整理するのではなく、時間的に余裕が無い中ではワーキンググループが功を奏するやり方を構築する必要があるのではと思った。
柘自然保護官	大雪山をどうしていきたいのかというビジョンは大雪山全体で話し合うべきものであり、私としては大雪山国立公園連絡協議会の中で練る必要があると思っている。そこに登山道関係者の意見を注入することが大切で、協議会の方に我々の意見を伝えることが大切と思う。登山道維持管理に関する技術的な保全是、技術指針に示されているが実際にはワーキンググループを運用しなければ実現できないと考えている。事前に計画を共有して検討することは大雪山を質の高い場所として維持していくには必要なこと。横須賀さんからも指摘あった、ワーキンググループの運用の課題はその通りで、将来的には前年度に次年度の補修計画の資料を整え、冬場に中身の検討をし、シーズンが始まったらすぐに始めるなどの運用が考えられる。横須賀さんからは部会を作ってもいいとの話があった。皆さんの雰囲気としては如何でしょうか。

表大雪地域でのWS終了後の参加者・学識経験者のコメント

佐藤氏	外国人の対応に一票いれた。彼らは習慣も山に対する考え方も違うので、こちらに来たらこちらの習慣やルールに従ってもらうための対応には言葉・労力の問題もあって懸念している。遭難対策も時間・労力も使うが、やらないわけにはいかないので外国人への対応という私の一票でした。
横須賀氏	外国人の対応に赤丸、自分がやれそうなので事務局体制への支援に青丸を入れた。外国人対応に関しては、ロンリープラネットに情報が載っていて、今は日帰り登山が多いが、今後は2泊3泊の縦走が多くなっている。
佐久間氏	私は理念が大事だと思う。どの程度まで整備するのか、大雪山グレードもあるが、理念を先に決めて、何かあれば戻りような基本的な理念がないと過剰整備が起こる可能性がある。外国人対応にしても明らかに不備がある人は山へ入れないことも考えるべき。基本的な考え方を作ることが、先に関口さんが言われたことと同じで重要かと思う。
荒井氏	佐久間さんの話を聞いて、どのように優先順位をつけたらいいか考えた時に、理念に基づいていけばよいと思った。理念の軸が国立公園の経営なので、やりたいことは色々あるが資源は決まっているので人・金・もの・情報が枠組みになると思った。
木村先生	観光の観点から登山道維持などについてお話ししたい。今までのWSを振り返ると、1つが今地球規模で取り組みが求められている持続可能性について考えること、2つ目が観光を一つの柱として地域創生を行うこと、2つの政策が大雪山に大いに関係してきていると感じている。持続可能性については愛を持って大雪を次の世代へどのように繋げるかの議論を皆さんが今やっているところだと思う。また、2016年に政府が発表した日本の明日を支える観光ビジョンの中に、世界水準の国立公園を作ることがあげられている。今までは日本の代表的な価値ある公園を守るということに重点が置かれてきたが、今後は大雪山国立公園を広く紹介して活用してもらうことも必要となる。これらの2つの政策が後押しになってこのWSも意義あるものと認識している。外国人対応の話が出てきたが、通り一遍の観光に飽きた外国人は山にも、村にも入って来て日本文化を知りたいという所にたどり着く。北海道を代表する自然の宝庫である大雪山は外国人が興味を持つ場所となり、本日問題となっていた外国人対応は迅速に進めて行く必要がある。日本の山を深く理解をせずに入ってくるような外国人にトムラウシの事故のような過去の経験をどのように向けて行くかが喫緊の課題ではないかと思う。今、大連協を総合型協議会に移行していこうという動きの中で、カムイミタラDMO、日本遺産、ジオパークなどもあり、それぞれで良かれと思って取組を行っているが、実は利用者にとって窓口なのかかわからないということが私は危惧しており、課題だと思っている。例えば情報の一元化をしていかないと色々な人が来て色々なことをやる。それに対する対応もまちまちだったりする。本日の登山道の整備の話だけでなく、これから様々な問題が起こってしまう可能性があると思う。登山道維持管理部会がリーダシップを取って入山者の安全や持続可能性を強く伝えて行って欲しいと思う。どのような体制でお客さんを迎えるか、ビジョンを地域で共有できているのか、この2つが肝要だ。この会をゴールに向けて急速に進めていただきたいと思う。

東大雪地域での質疑応答

大西氏	登山道の管理の問題としてはお金の問題が責任の問題があると思うのが、総合型協議会のメンバーで解決できるのかと思う。行政の担当者が「分かりました、私の町でお金も責任も持ちます」とは言えないので、上の判断できる人が入ると物事が運ぶのではないかと思った。メンバーを見ると部会との違いが良く分からない。うちの場合だと町長でない鹿追町として登山道の整備に関わるという判断は出来ないと思う。
柘自然保護官	大連協は各首長がメンバーとなっており、引き続きこの体制で行こうと思っている。お金や事業執行の話など大きな話をすると思う。進め方は考えて行かないといけないと思うが、今ビジョンで上がっている利用者負担、民間資金の活用なども議論したうえで、維持管理にもお金を集める工夫が必要だろうと思う。初めて行う大胆な取組については町長いる中で決め、登山道の専門的な事については部会で検討する仕組みを考えている。町長が全体として意志決定した細部を部会で検討する仕組みを考え、部会には町長さんが出席しなくてもいい仕掛けで運用できればと思う。

東大雪地域でのWS終了後の参加者のコメント

河田氏	当地域は水源林の関係もあり管理主体がいなくて整備が進められない。幌加コースを整備したが地上部分しかできていない。路面はいじれない。水が溜まっているところは水を蹴飛ばす位しかできないので、上土幌町に対処していただかないと何もできない状態。担当課長に話しても町長の意向で何もしないということになる。登山道を補修して怪我をされたら訴訟になって困るという話もある。大連協を通して疑問を解いて行くようにして頂けたらと思う。
岡崎氏	大西さんや河田さんの言われるように本当に動くのか心配。民間団体の意向ではなく管理者の意向が大きいと思う。予算を気にする方もいるが、予算・労力を民間で掛けてもいい、受益者負担でいいという世論も増えており、予算については集め方の問題だけでいくらでも集まると思う。むしろ問題は技術があり、皆が整備したいと思って結局は直らない状態が続くこと。「出来るから許可してよ」と行政に迫る所まで近づいてきていると思う。行政の方は本当に覚悟して進めていただきたいと思う。本当に山が駄目になってからでは遅い。
牛嶋氏	行政の立場からいうと北海道の部分が多くの、その部分の荒廃が大きいので問題となっていると思う。お金が無いのはその通りだが、どのような意向があつてどのような人たちが困っているかが明確に表明されると予算要求がしやすいと思う。そのような意向が部会としてあればいいと思う。担当者として意向がまとまっていれば早いし、バックグラウンドを整理していただくことは大切だと思う。

大雪山国立公園における協働型管理運営体制の構築に向けたワークショップ（第3回）意見とりまとめ

赤字：「重要なこと」投票数 / 青字：「やれそうなこと」投票数

テーマ分類	個別意見	表大雪地域投票結果	東大雪地域投票結果	表大雪地域投票数	東大雪地域投票数	テーマ分類	意見分類	表大雪地域投票結果	東大雪地域投票結果	再テーマ分類	まとめ意見	表大雪地域投票結果	東大雪地域投票結果		
部会メンバーと利用者への情報提供	個人の「出来ること」を知る	-	-	0	0	1	情報共有・提示	10	0	①	登山者・利用者に対する登山道状況についての情報提供と利用マナーの指導	37	11		
	登山道全体の詳細な情報提示	●●	-	2	0			8	7			1	0	38	20
	国立公園に関する全般的な情報の共有	●●	-	2	0			0	0			1	0	0	0
	情報交換会にとどまらず、他団体へのアドバイスができる環境	-	-	0	0			0	2			0	0	0	0
	危険箇所の周知と情報共有	●●●●	-	4	0			4	3			8	1	1	0
	登山者に対する登山道利用マナーの指導をどうするかを考えるべき	●●●●●●●●	●●●●	8	3			4	1			4	1	0	0
	各自が何ができるか、できることの共有	●●	-	0	0			0	0			2	0	0	0
	登山道に関する情報提供・収集	-	-	0	0			4	1			4	1	0	0
	自己紹介・交流	-	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	情報を収集し、利用者に対する情報提供	●●	-	2	0			0	2			0	0	0	0
	団体間の意見交換	●	-	1	0			0	0			0	0	0	0
	情報収集・提供	●●●●●●●●	-	7	1			0	0			7	1	0	0
	外国人や一般利用者への情報提供(見どころ・見どころ・危険箇所等)	●●●●●●●●	-	4	0			0	0			4	0	18	1
	外国人対応	●●●●●●●●	-	4	1			4	1			4	1	4	1
	外国人に対応できる共通の認識・システムの形成	●●●●●●●●	-	10	0			0	0			10	0	0	0
情報の内容	利用者へのサービス向上(トイレ・道標・案内板)	●●●●●●●●	●	0	1	3	情報の内容	4	3	①	大雪山国立公園登山道関係者・団体間の登山道補修技術の共有・情報発信	4	0		
	ルートが長く、道のくずれが進んでいる	-	-	0	0			9	4			8	1	0	0
	最新情報を共有するためのシステムづくり	●●	●●	1	1			0	0			0	0	0	0
	登山道の状況ごとの補修方法、技術の共有	●●●●●●●●	-	3	0			0	0			0	0	0	0
	技術の発信(補修と復元は違う視点が必要)	●●	-	1	0			8	1			1	0	0	0
	山岳ガイドに対して登山道に関する幅広い調査(山岳ガイドの声→登山者の声)	-	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	行政HPの見直し	●●	-	1	0			1	0			1	0	0	0
	登山口までのアクセス・災害・不通→復旧の目安	●●	-	0	1			0	0			0	0	0	0
	大雪山グレート別の状況の共有化	-	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	山をよくするルートマップ作り	●●●●	●●●●	2	0			3	2			2	0	0	0
	登山道の荒廃の問題を利用者へ伝える	●●●●●●●●	●●●●	0	3			0	0			7	2	0	3
	大雪山利用者に対する一元化登山道情報の発信	●●●●●●●●	-	4	0			16	6			8	3	0	0
	環境保全をしないと観光は成り立たないと理解させる	●●●●●●●●	●●●●	7	3			1	2			0	0	0	0
	国立公園指定の意義(保護と利用)に基づいて利用者に対する教育を如何にしたらよいか	●●	-	1	0			0	0			0	0	0	0
	登山道の整備が進むと時間の短縮が図れる	-	-	0	0			0	0			1	1	0	0
部会での内容を関係者以外の様々な人に伝える	●●●●●●●●	●●●●	1	1	0	0	0	0	0	0					
一般登山者への広報	●●●●●●●●	●●●●	2	2	0	0	0	0	0	0					
一般の方への情報公開	●●●●●●●●	●●●●	1	0	0	0	0	0	0	0					
発信する人・内容	実施したことの可視化	●●●●●●●●	-	3	0	4	発信する人・内容	7	2	①	登山道利用者に対して発信する情報(イベント情報含む)の可視化と一元化	0	3		
	部会としてのHPを持ち発信	-	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	登山者への情報源"見た目"一元化	●●	-	0	1			0	0			0	0	0	0
	富士山のようなイベント	-	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	情報の一元化	●●●●●●●●	●●●●	0	2			0	0			0	0	0	0
	情報発信機能の強化	●●●●●●●●	-	3	0			0	0			0	0	0	0
	課題の表明と対策実施の検証と公開制度	●●●●●●●●	●●●●	0	0			0	0			1	1	0	0
	情報交換会以外での交流の場	-	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	行政担当者が引き継げる情報のまとめ	-	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	表大雪と東大雪の情報共有を密にする方策の実施	●●●●●●●●	●●●●	1	0			0	0			0	0	0	0
メールマガジン等ネットまたはメールで議論・情報共有できる仕組み	●●●●●●●●	●●●●	0	1	0	0	0	0	0	0					
現場の詳細な情報	●●●●●●●●	-	2	0	0	0	0	0	0	0					
発信のアイデア	提案に賛成します	-	-	0	0	5	発信のアイデア	0	0	①	部会構成員同士で表大雪・東大雪同士の情報共有を密にできる仕組み	1	1		
	各配布用印刷物の必要性の検討	-	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	観光セクターの積極的参加	-	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	継続的意見は良い、関係者や山に登る団体だけでなく観光で来る人の意見もあればよい	-	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	他分野の人材活用	●●●●●●●●	-	3	0			0	0			0	0	0	0
	全体をとらえる視点と多様な視点(観光サイト)	-	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	幅広い参加者やネットワーク	●●●●●●●●	-	1	0			0	0			0	0	0	0
	民間のみにする	-	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	(思い付きでない)科学的である人・自然	●●●●●●●●	-	1	0			0	0			0	0	0	0
	主体となる人・機能	●●●●●●●●	-	0	0			0	0			0	0	0	0
部会での情報管理	メンバーの高齢化対策と人材育成	●●●●●●●●	●●●●	6	0	6	部会での情報管理	0	0	②	部会メンバーの能力向上、活性化、人材育成	6	0		
	管理運営の--コストを下げる、リスクを下げる、成果を上げる、安定した体制を整える--方策を考えたい	-	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	スピード感のある意思決定機能	●●●●●●●●	-	1	0			0	0			0	0	0	0
	内容も大事だが、時期を早く、時間を十分にこらえてほしい	●●●●●●●●	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	合意形成→素案作り、意思決定(管理者)、実施(各団体)という機能	●●●●●●●●	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	維持管理の実働部隊は民間ボランティアの活用は絶対に必要になるのでその組織化や活用方法の標準化	●●●●●●●●	●●●●	0	0			0	0			0	0	0	0
	部会内での専門分科会	●●●●●●●●	-	3	1			0	0			0	0	0	0
	維持管理に関する場所別又は団体別の協力と役割分担	●●●●●●●●	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	第三者の視点	●●●●●●●●	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	楽しさ	●●●●●●●●	-	0	0			0	0			0	0	0	0
人に関すること	話しやすい雰囲気	●●●●●●●●	-	1	0	7	人に関すること	0	0	③	部会での開催時期と回数の見直し	0	0		
	登山道維持管理部会だけでなく情報交換会のままでもよいのではないか	●●●●●●●●	●●●●	0	1			0	0			0	0	0	0
	シーズン中ごろの情報交換	-	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	年2回だけでなくシーズン中も情報を共有しよう	●●●●●●●●	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	部会の回数を増やす(中間)	●●●●●●●●	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	組織としての確立。代表者を定める、規則を設ける等	●●●●●●●●	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	組織・規約・代表者・事務局	●●●●●●●●	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	一定のメンバーと決め方のルール	●●●●●●●●	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	登山道維持管理部会となった場合責任の分担、リスク管理についての話し合い	●●●●●●●●	●●●●	0	2			0	0			0	0	0	0
	その他	登山道維持管理部会設立への賛成意見	-	-	0			0	8			その他	0	0	④
情報交換会配布用印刷物の見直し		-	-	0	0	0	0	0		0	0		0		
部会以外の多様な視点(観光分野、観光客、他分野等)やネットワーク		●●●●●●●●	-	4	0	0	0	0		0	0		0		
民間からの視点		●●●●●●●●	-	0	0	0	0	0		0	0		0		
科学的な視点		●●●●●●●●	-	1	0	0	0	0		0	0		0		
主体となる人・機能		●●●●●●●●	-	0	0	0	0	0		0	0		0		
高齢化対策と人材育成ができる人		●●●●●●●●	-	1	0	0	0	0		0	0		0		
管理運営に対する効率的なシステム		●●●●●●●●	-	0	0	0	0	0		0	0		0		
決定するまでにかかる時間の効率化		●●●●●●●●	-	1	0	0	0	0		0	0		0		
部会内での専門分科会や役割分担の確立		●●●●●●●●	-	0	0	0	0	0		0	0		0		
部会の雰囲気を楽しみ、話しやすく	●●●●●●●●	-	1	0	0	0	0	0	0	0					
部会ではなく情報交換会のままでもよい	●●●●●●●●	-	0	1	0	0	0	0	0	0					
部会での決め事	部会の開催時期と回数の見直し	●●●●●●●●	-	0	0	9	部会での決め事	0	0	⑤	部会メンバーの能力向上、活性化、人材育成	6	0		
	組織として代表や規約等の整備	●●●●●●●●	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	合意形成までのやり方(ルール)の決定	●●●●●●●●	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	部会としてのリスク管理や責任問題の議論	●●●●●●●●	-	0	2			0	0			0	0	0	0
	管理運営に関する効率的なシステム(役割分担、決定プロセス、リスク管理、責任問題)	●●●●●●●●	-	3	1			0	0			3	3	0	0
	部会の理念、あり方、方向性、扱う範囲(登山道のあり方、大連協との関係と権限、登山道以外の付帯施設の管理等)	●●●●●●●●	-	18	10			0	0			18	10	0	0
	部会ではなく情報交換会のままでもよい	●●●●●●●●	-	0	1			0	0			0	0	0	0
	部会での開催時期と回数の見直し	●●●●●●●●	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	組織として代表や規約等の整備	●●●●●●●●	-	0	0			0	0			0	0	0	0
	合意形成までのやり方(ルール)の決定	●●●●●●●●	-	0	0			0	0			0	0	0	0
部会としてのリスク管理や責任問題の議論	●●●●●●●●	-	0	2	0	0	0	0	0	0					

理念・目的の共有や議論	目的・方針の共有や議論	部会として大連協総会に参加し「山」の現状を問題提起する	●	-	1	0		
		負担少なく、長くやれる	●●	-	2	0		
		部会メンバーの登山道に対する認識や考え方を整理したい	●	-	0	0		
		どうゆう山であるべきか？検討	●●●●	●●	3	1		
		グレードに応じた登山道の将来像のコンセンサス	●	-	0	0		
		「広く大雪山としての方向」、「詳細は現場としての視点」の双方を踏まえて	●	-	1	0		
		自分の範疇だけでなく大雪山の一つとして捉える認識	●	●●	1	2		
		目的の共有	●●●●	-	3	0		
		各登山道のあるべき姿、「美しい」という共通認識	●●●●	-	3	0		
		方向性・方針の議論	●	-	1	0		
		大雪山全体をどうしていきたいのか、どうなるべきかの共有	●●●●	●●●●	3	2		
		大連協メンバーへの問題や情報の提示	●	-	0	0		
		大雪山としての夢と目標を語る場にする	●●	-	2	0		
		愛	●●●●	-	4	0		
		理念を語る	●●	-	2	0		
何を実施したいか？夢を語る	●●	-	2	0				
山を子孫にいい形で引き渡す	●	-	1	0				
部会などで扱うテーマの種類	部会組織の設定	登山道維持管理部会ではトイレ問題も扱うことを検討すべき	●	-	0	1		
		案内看板少ない	●●●●	●	4	1		
		避難小屋の更新に関わってほしい	●●●●	-	4	0		
		トイレ問題に関わってほしい	●●●●	-	4	0		
		野営指定地、避難小屋、トイレの維持管理	●●●●●●	●●●●	5	1		
		野営場が少なく安心できる場所がない	●●●●	-	4	0		
		山小屋の維持管理、更新も含めたビジョン作成	●●●●	-	4	0		
		トイレの老朽化が激しい。早めに利用者数データを把握すべき	●●●●	●●●●	4	2		
		権限	●	-	0	1		
		組織間の調整	●	-	1	0		
		未執行区間	●●●●	-	4	3		
		行政手続きの簡素化	●●●●	●●●●	4	2		
		相互理解	●●●●	●●●●	4	2		
		議論の洗い出し・その共有及び優先付け	議論の洗い出しと優先順位付け	課題に優先順位付け	●	-	0	1
				①短期的課題と②長期的課題の吟味	●●	●●	1	1
路線別に優先順位を決めて協議整備	●●●●			●●	4	1		
現在一番補修が必要な箇所の見学(認識の一致を)	●●●●			-	4	0		
登山道整備の優先順位とレベル	●●●●			●●	4	1		
課題に優先順位を付ける	●●●●			●●	4	1		
ある程度長期スパンで登山道整備計画を作る	●●●●			-	4	0		
気になっている場所の出し合いと相談し合い	●●●●			●●	4	1		
長期的、短期的な課題の洗い出し	●●●●			-	4	0		
登山道の課題の洗い出し	●●●●			-	4	0		
課題の洗い出しと共有	●●●●			●●●●	4	2		
課題解決の進め方	P D C A サイクル			部会メンバーによる定期的な登山道の現地調査→課題と解決の方向性の共有化	●●	●●	1	1
				自分の団体の仕事として抱えこまずみんなで相談し合うこと	●●●●	-	4	0
				登山道情報の収集・蓄積・公開(例:荒廃状況データや計画)に向けてのソフト面・ハード面・スタッフの充実	●●●●●●	●●	6	1
				課題を解決する具体的な話し合いの場とする	●●●●	-	4	0
		登山道の前後により(山麓の人々が)どう影響が出るのか	●●●●	-	4	0		
		登山道整備の人材確保	●●●●	●●	4	1		
		課題を解決するための情報収集・計画・議論・実施・モニタリング・見直しなどを進めるシステム構築(PDCAサイクルの確立)	●●●●●●	●●	6	2		
		モニタリングと検証	●●●●	●●	4	1		
		登山道と道徳等の関係や道の性質による人の流れの検討	●●●●	-	4	0		
		今まで通りでは前に進めない、まず作る・動く、整ってからでは遅い。	●●●●	-	4	0		
		問題の収集と蓄積の機能	●●●●	-	4	0		
		登山道維持管理に関する問題点の集約→解決に向けた計画策定	●●●●●●	●●	6	1		
		完成したものでなくて良い、PDCAで変化する体制を	●●●●●●	-	6	0		
		日々のデータ、専門知識、科学的分析	●●●●●●	-	6	0		
		継続的なモニタリング	●●●●●●●●●●	-	10	3		
調査に対する様々な支援	●●●●●●	-	6	0				
問題の解決方法の検討とスケジュール作り	●●●●	-	4	0				
資金に関すること	資金	林道を直すお金	●●●●	-	4	0		
		手弁当・ボランティアだけでは活動に限界。ある程度予算が必要。	●●●●	●●	4	1		
		使えるお金	●●●●	-	4	0		
		環境保全に関わる予算確保	●●●●●●	●●	6	1		
		予算、まずは大連協の中で独自の収入を検討→大雪山協力を	●●●●	●●	4	1		
		事業予算を持つことの検討	●●●●	-	4	0		
		お金	●●●●●●	-	6	0		

目的共有や議論の	大雪山・登山道をどうしていきたいかの目的や方向性について十分に議論し共有する	12	5
	大連協へ登山道維持管理部会としてしっかりと問題提起をする	1	0
	負担を減らし、長く活動する	2	0

理念	理念や夢を語る場とする	1	0
		4	0

部会組織の種類・規模	登山道だけでなく付帯施設(トイレ・看板・避難小屋・野営指定地)の維持管理も行う	3	5
		9	2

権限	部会としての維持管理権限や決定権についての明確化	1	1
	総合型協議会からの一定の独立性	0	0
		0	0

組織間の調整	行政機関との(権限や範囲)についての調整や協定	0	1
	各機関・山岳会等の関係の調整	1	0
		0	0

未執行区間	未執行区間の解消	1	3
		0	0

簡素化	登山道整備関連での手続きの簡素化	3	2
		0	0

相互理解	行政や管理者との調整・対応	2	0
	総合型協議会での登山道(=部会)の位置づけ	0	0
		0	0

優先と洗出し	課題の優先付け、洗出し、課題解決に向けた優先順位付け(長期と短期の計画策定)	8	1
		6	2

課題の洗い出しと共有	部会メンバー間の課題や心配事の洗い出しと共有	1	1
	課題解決に向けた具体的な準備(ソフト・ハード・スタッフ育成)	4	0
		8	2

課題解決の進め方	課題解決のための情報収集・計画・議論・実施・モニタリング・見直しなどを進めるシステム構築(PDCAサイクルの確立)	5	2
		14	5

資金	施設を整備・補修する直接的なお金	6	2
	ボランティア・周辺環境整備などにも使える予算	3	0
		6	3
		1	0

③	登山道の適切な維持管理の実施に必要な基盤形成(未執行区間の解消等)と円滑な手続きに関する相談・検討	6	6
		1	0

③	課題の洗い出し、共有、解決に向けた優先順位付け(長・短期の計画策定・ソフト・ハード面の具体的な解決方法とPDCAサイクルの確立)	18	4
		25	9

④	施設整備・補修に関する直接的資金	6	2
		3	0
		6	3
		1	0